

第19回 全国街路事業 コンクール応募資料

平成19年2月

応募者名：兵庫県 東播磨県民局

事業の名称：JR山陽本線等加古川駅付近

連続立体交差事業

実施都市名：兵庫県 加古川市

事業の目的

兵庫県の東播磨地域の中心都市である加古川市では、東西に走るJR山陽本線と北へ向かって延びるJR加古川線が市の中心部を分断し、12箇所あった踏切により慢性的な交通渋滞が発生していた。また、山陽本線北側の住宅地と南側の商業地が分断され、土地利用においても南北の一体的な利用が著しく阻害されていた。これらの弊害を抜本的に解消し、地域の道路ネットワークを全面的に改善強化するとともに、市街地の一体化による魅力的なまちづくりを促進することを事業の目的としている。

事業概要（１）

事業名	: JR山陽本線等加古川駅付近 連続立体交差事業
事業箇所	: 加古川市野口町～加古川市河原 他
除却踏切数	: 山陽本線 6箇所、加古川線 6箇所 計12箇所
立体交差する道路	: 15路線
主な付帯工事	: 気道車区（厄神地区へ移転）
関連事業	: JR加古川橋梁改築事業 加古川駅北、坂元・野口土地区画整理事業
総事業費	: 約285億円
事業期間	: 平成4年度～平成17年度

事業概要（２）

本事業は、JR山陽本線約2.4kmおよびJR加古川線約1.0kmの鉄道を高架化し、高架部と交差する加古川別府港線、平野神野線、河原間形線などの幹線街路等の街路整備を行ったものである。

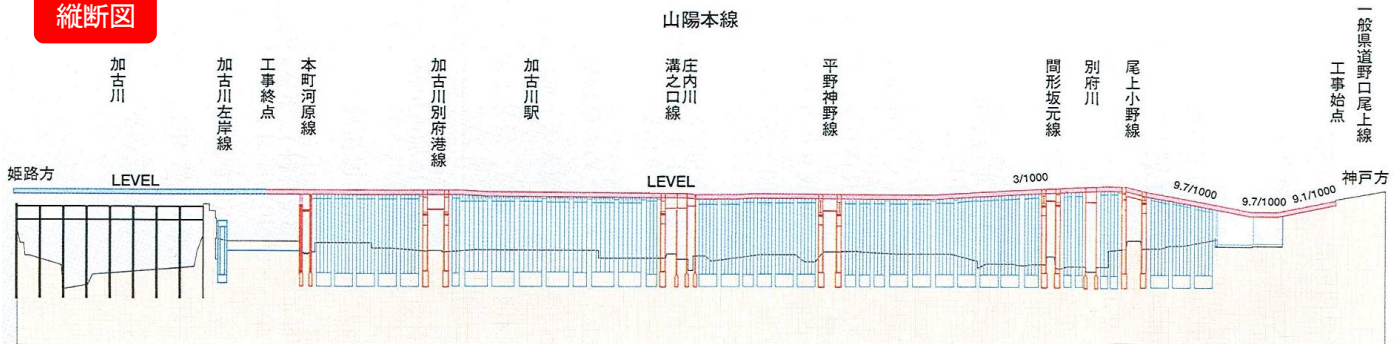
また、連立事業とあわせて、加古川駅北土地区画整理事業等の面整備事業を実施することにより、事業効果を相乗的に高めることとしている。

事業位置図

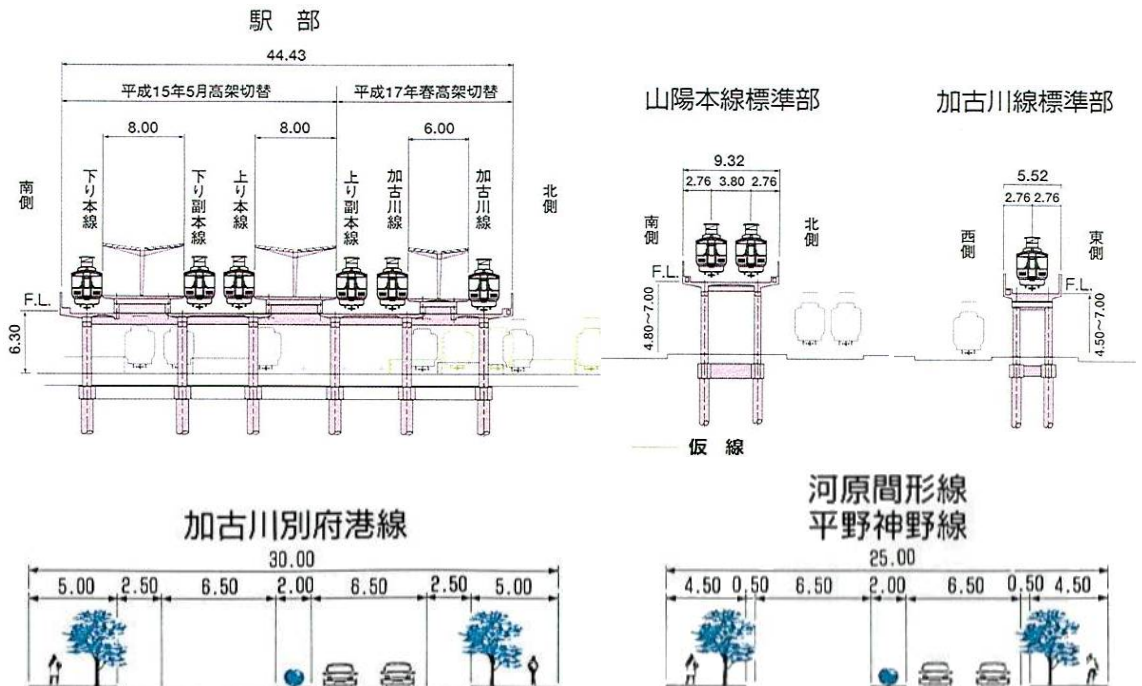


全体図(平面図・側面図・横断面図)

縦断面図



横断面図





○事業概要

事業名 : JR山陽本線等加古川駅付近
連続立体交差事業
事業箇所 : 加古川市野口町
～加古川市河原 他
除却踏切数 : 山陽本線 6箇所、加古川線 6箇所
計12箇所
立体交差道路: 15路線
主な付帯工事: 気道車区(厄神地区へ移転)
関連事業 : JR加古川橋梁改築事業
加古川駅北、坂元・野口
土地区画整理事業
総事業費 : 約285億円
事業期間 : 平成4年度～平成17年度

○交通量調査結果

供用前 平成14年5月15日
供用後 平成19年2月7日
【自動車交通】
加古川別府港線: 交通量 22,556 → 21,698 台
旅行速度 14.1 → 21.2Km/h
平野神野線 : 交通量 11,509 → 12,735 台
旅行速度 19.0 → 21.0Km/h
加古川左岸線 : 交通量 12,953 → 11,069 台
旅行速度 19.7 → 22.6 Km/h
河原間形線 : 交通量 0 → 10,106 台
(新設) 旅行速度 0 → 27.8 Km/h
【歩行者交通】
加古川別府港線 : 交通量 1,110 → 1,940 人
平野神野線 : 交通量 1,413 → 1,892 人

「整備効果」(中心市街地エリアでの効果)

○交通量の増加 47,018 ⇒ 55,607台(18%増加)
○混雑度の低減 1.96 ⇒ 0.76 (域内の渋滞解消)
○旅行速度の向上 12.8 ⇒ 19.3 Km/h(50%増加)
○渋滞長の減少 1,480 ⇒ 710m(54%減少)
○歩行者交通の増加 2,523 ⇒ 3,832人(52%増加)



【道路利用者の事業に対する意見】

「渋滞が減少し、道路の走行性や安全性が向上した」と肯定的な意見が多い。



事業前



事業後

【その他の主な効果】

○バリアフリー化された新駅舎の整備
○高架下空間における公共サービスの向上と賑わいの創出
○駅北広場整備による交通ターミナル機能の向上
○基地や線路跡地を利用した基盤整備による住環境整備

事業前写真

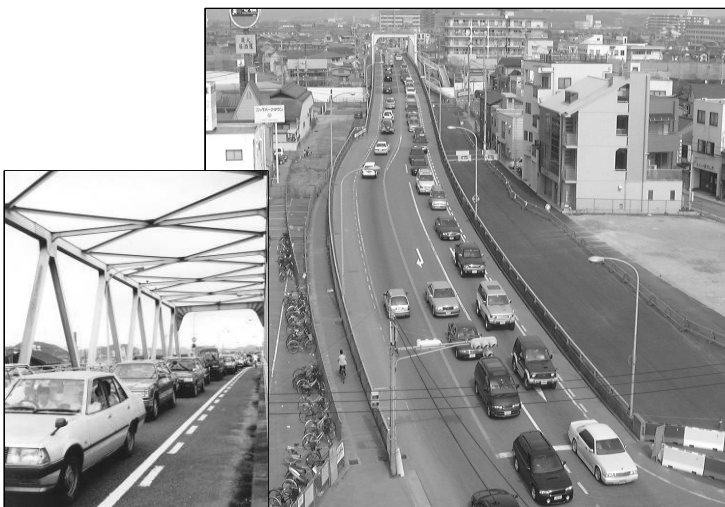
平成2年11月撮影(北方向より)



昭和58年撮影



平成14年5月撮影



事業後写真

平成18年3月撮影(南方向より)



平成17年3月撮影



平成17年10月撮影

